

事例5

ミニツリーをつくろう

内容	間伐材を使ってミニツリーをつくる。 木の成長のしくみや、木が環境に果たす役割を解説する。
ねらい	・木に触れて、じっくり観察することによって、木のしくみや働きを理解する。 ・木が大気や水の循環に深くかかわっていることを知り、地球の環境に必要な不可欠であることを理解する。
学習効果	感性の発達、工夫する力の向上、環境意識の向上
関連教科	理科、図工
対象学年	小学校3～5年生
対象人数	20人程度
場所	湯の山温泉「グリーン工房」または出前可(屋内外)
時期	4月～9月(木が水を吸い上げている時期)
進め方	<ol style="list-style-type: none"> 木の限界を知ることを通じて木の成長について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 世界一《のっぽ》の木は？ 葉の働き、根の働き、道管・師管について学ぶ。 世界一《長生き》の木は？ 年輪について、針葉樹と広葉樹や、常緑樹と落葉樹の違いなどを学ぶ。 世界一《太っちょ》の木は？ 形成層について学ぶほか、地球の環境について学ぶ。 ツリーにする枝葉のついた檜の皮をむき、年輪や形成層、葉の様子を観察して、台にする広葉樹の板と比較する。 剪定ばさみでツリーの枝の長さを考えながら切る。 接着剤を塗ってビスでツリーを台に固定する。 全体のバランスを考えながら枝の長さを微調整する。 紙ペーパーでバリを取って仕上げる。

<p>ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水を吸い上げている時期の檜の皮をむく作業で、皮のむきやすさやツルツルの木肌を体感し、形成層について学ぶ。 ・安定感やバランスを考えながら枝を剪定し形を整える。
<p>道具・材料</p>	<p>檜の枝付き間伐丸太(φ2~5cm) 台にする広葉樹の板(15×15cm 厚さ2cm程度) 接着剤、ビス 剪定ばさみ、鋸、ドリルドライバー、インパクトドライバー</p>
<p>所要時間</p>	<p>60~120分</p>
<p>経費</p>	<p>20人程度として 計 29,000円 程度 講師料 2,000円×5人=10,000円 交通費 1,000円×5人= 5,000円 材料費 500円×20人=10,000円 傷害保険 200円×20人= 4,000円</p>
<p>森のせしめ 氏名・団体名</p>	<p>グリーンボランティア「森林づくり三重」 会長 池田輝明</p>

